

令和5年度日本語指導支援推進校事業

実践報告集

兵庫県教育委員会

目 次

※ 各項目をクリックすると、該当ページに移ります。

[はじめに](#)

1 本資料について

- (1) [日本語指導支援推進校事業について](#) 1
- (2) [本資料の活用について](#) 1

2 日本語指導について

- (1) [日本語指導とは](#) 1
- (2) [外国人児童生徒のためのJ S L対話型アセスメントDLA](#) 2
- (3) [特別の教育課程](#) 3
- (4) [個別の指導計画（年間指導計画）](#) 3
- (5) [J S Lカリキュラム](#) 3

3 [各校の実践報告](#) 4

4 [J S L参照枠（全体）とDLA（4技能）の評価例](#) 50

はじめに

グローバル化の進展等に伴い、兵庫県には現在、127,090人（令和5年6月末現在）の外国人の方々が暮らしています。公立学校に在籍する外国人児童生徒数は4,063人、そのうち、日本語指導が必要な外国人児童生徒は1,537人（令和5年5月1日現在）であり、年々増加傾向であるとともに、散在化傾向が進んでいます。

日本語指導が必要な外国人児童生徒にかかわる課題として、自尊感情やアイデンティティが育まれにくいという問題や、基礎学力が十分定着しておらず、進路に影響する問題などが生じています。

兵庫県教育委員会では、平成12年に「外国人児童生徒にかかわる教育指針」を策定し、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に国籍や民族等の「違い」を「違い」と認め合い、豊かに共生しようとする意欲や態度を育むなど、人権尊重を基盤に多文化共生社会の実現をめざす教育を推進しています。

平成28年度から、県立神戸甲北高等学校、県立芦屋高等学校、県立香寺高等学校の3校において、外国人生徒の特別枠選抜を設けるとともに、小学校・中学校段階で、日本語（生活言語・学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、「日本語指導支援推進校事業」を実施し、3市（姫路市、芦屋市、三木市）17校に日本語指導支援員を派遣しています。2019（平成31）年度からは、県立伊丹北高等学校、県立加古川南高等学校の2校が外国人生徒の特別枠選抜校に加わり、本事業の重要性はますます高まっているといえます。今後も、指導を受けた児童生徒が各教科及びその他の教育活動に日本語で参加し、主体的に学べるように、日本語指導支援員の指導力向上と校内連携の強化をめざし、研修等において指導内容や指導方法の工夫・改善、体制の整備を図りながら、さらに事業を充実させていきたいと考えています。

本資料は、令和5年度の日本語指導支援推進校の実践を抜粋してまとめたものです。各学校における日本語指導の充実が大いに活用されることを期待しています。

令和6年3月

兵庫県教育委員会

1 本資料について

(1) 日本語指導支援推進校事業について

兵庫県教育委員会は、日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対し、実態に応じた日本語指導を推進し、日本語（生活言語、学習言語）の習得と基礎学力の定着を図るため、日本語指導支援員を派遣する市町に対して、経費の一部を補助する事業を実施しています。

令和5年度の推進校（姫路市・芦屋市・三木市）の実践を抜粋し、本資料にまとめました。

(2) 本資料の活用について

日本語指導を行うためには、日本語指導が必要な児童生徒の日本語習得状況を把握し、個別の指導計画等を作成し、系統的・継続的な支援を行うことが大切です。

そこで、各推進校は、「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」（平成26年文部科学省作成）等を用いて日本語能力測定を実施し、その結果を踏まえて日本語指導や教科指導を行っています。

※ DLAについての詳細は、次ページ2(2)「[外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA](#)」を参照。

2 日本語指導について

(1) 日本語指導とは

児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的としています。

ア 「日本語を用いて学校生活を営む」ことができる

日本の学校生活や社会生活について必要な知識を学び、日本語を使って行動する力を身につけることが主な目的となります。健康・安全・関係づくりなどの観点や、教科や文房具、教室の備品名など、学校生活で日常的に使う言葉（※「サバイバル日本語」と呼ばれることがあります）などについて、その児童生徒にとって緊急性の高いものから順に指導を行うことを目的とするものです。

具体的には、挨拶の言葉や実際の場面で使用する日本語の表現を練習したり、自分の名前を平仮名や片仮名で書いたり、教室に掲示されている文字を理解できるようにしたりすることなどが考えられます。

イ 「日本語を用いて学習に取り組む」ことができる

日本語で行われる在籍学級での授業に参加し、周囲の支援や様々な関わりを通して支障なく学習に取り組むことができることが主な目的となります。

基礎的な力としての発音、文字・表記、語彙、文型に関する指導や、例えば「書く」ことに焦点を絞って段階的な指導を行うなど、児童生徒の日本語の習得状況や、学習の進捗状況に合わせて指導計画をたてる必要があります。

(2) 外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA

日常会話はできるが、教科学習に困難を感じている児童生徒を対象とし、言語能力を把握すると同時に、教科学習支援のあり方を検討するための資料として開発されました。

いわゆる従来型の紙筆テスト等とは異なり、テストから得られる結果を序列化するためのものではなく、テストの実施過程そのものを、学びの機会として捉えるところに特徴があります。そのため、テストの実施を指導者が児童生徒に向き合う大切な機会（対話重視）であるとし、「対話型」を基本としています。指導者と子どもが一对一で向き合うことで、日頃の学習の成果や今後の支援活動で必要となる学習内容・学習領域を絞り込んでいく上で、必要な情報を得ることができます。

DLA ステージ	日本語の学習段階	支援の段階	「特別の教育課程」の活用を推奨
6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科内容に関連した内容が理解できる。 ・ 授業に興味をもって参加しようとする。 	【支援付き 自律学習】 必要に応じて支援	
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ 読み書きに抵抗感が少ない。 ・ 自律的に学習しようとする態度が見られる。 		
4	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常生活に必要な基本的な日本語がわかり、自ら発話ができる。 ・ 話し言葉を通じたクラス活動にある程度参加できる。 ・ 授業を理解して学習するには読み書きにおいて困難が見られる。 	【個別学習支援】 個別的な指導が必要	
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単文の理解がむずかしい。 ・ 発話に誤用が多く見られる。 ・ クラス活動に部分的参加を始める。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本語による意思疎通がむずかしい。 ・ 在籍学級での学習がほぼ不可能である。 	【初期支援】 手厚い指導が必要	
1			

(3) 特別の教育課程

帰国・外国人児童生徒等に対する日本語指導を一層充実させるため、「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」により、当該児童生徒の在籍学級以外の教室で行われる指導について「特別の教育課程」を編成・実施することができるようになりました。

「特別の教育課程」による日本語指導は、児童生徒が日本語を用いて学校生活を営むとともに、学習に取り組むことができるようにすることを目的とし、在籍学級の教育課程の一部の時間に替えて、在籍学級以外の教室で行います。

(4) 個別の指導計画（年間指導計画）

児童生徒一人ひとりの実態に応じて「特別の教育課程」を編成し、きめ細かな日本語指導を行うためには、個々の児童生徒の日本語能力や学校生活への適応状況も含めた生活・学習の状況、学習への姿勢・態度等の的確な把握に基づき、指導の目標及び指導内容を明確にし、指導計画を作成することが必要です。

個別の指導計画では、個の日本語習得状況に応じて「技能別（聞く・話す・読む・書く等）」及び「各教科」の日本語指導の目標を学習段階や单元ごとに設定して、指導の充実に活かしていきます。文部科学省のホームページには、様式が掲載されています。

(5) J S Lカリキュラム

J S L (Japanese as a Second Language) カリキュラムは、日本語の力が不十分なため、日常の学習活動についていけない外国籍の（日本語を第二言語とする）生徒の授業に参加するための日本語の力と学ぶ力（「日本語で学ぶ力」）を育成することを目的としたモデル・カリキュラムです。

平成 15 年度に小学校編、平成 18 年度に中学校編が文部科学省から刊行されています。

◇ 参考

- 1 海外子女教育、帰国・外国人児童生徒教育等に関するホームページ
「CLARINET へようこそ」（文部科学省）

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet



- 2 外国につながるのがある児童・生徒の学習を支援する情報検索サイト
「かすたねっと」（文部科学省）

<https://casta-net.mext.go.jp/>



- 3 子ども多文化共生センターホームページ（兵庫県教育委員会）

<http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>



3 各校の実践報告

- ◇ 各枠内をクリックすると、該当ページに移ります。
- ◇ 各枠内の表記内容は、右図の通りです。
- ◇ DLAについての詳細は、[2\(2\)「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」](#)を参照。

校種 教科等 該当ページ

※注：DLAは、日本語での測定と同じ内容・方法で、母語で測定することもできます。

DLA〈話す〉の評価結果による分類

DLA 〈話す〉 ステージ	母語力 ※注					
	1	2	3	4	5	6
日 本 語 能 力	6					
	5				小学校 国語科 P.23	
	4				小学校 国語科 P.18	
	3	小学校 国語科 P.5		小学校 国語科 P.12	小学校 国語科 P.21	
	2		小学校 国語科 P.9	小学校 国語科 P.14 小学校 日本語 P.16		小学校 日本語 P.26
	1					小学校 日本語 P.28

- 【その他】[小学校・国語科 P.31](#) (DLA ステージ1 DLA 〈話す〉ステージ2)
[小学校・国語科 P.35](#) (DLA ステージ1)
[小学校・日本語 P.38](#) (DLA ステージ1)
[小学校・国語科 P.40](#) (DLA ステージ3)
[小学校・総合的な学習の時間 P.43](#) (DLA ステージ3)
[小学校・日本語 P.45](#) (DLA ステージ3)
[中学校・日本語 P.48](#) (DLA ステージ1)

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月23日）

(1) D L A ステージ

ステージ3

(2) D L A <話す> のステージ（令和5年12月1日）

日本語能力	ステージ3
母語力	ステージ1

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第3学年

②国籍及び母語： ベトナム・ベトナム語

③在 留 期 間： 105ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

- ・簡単な日常会話は理解できているが、集団で話すときに理解できていないことがある。内容やすることが分からない時は、聞きに来ることも多い。また、問いかけに対して日本語ですぐに答えられない時がある。
- ・ひらがなやカタカナは、ほぼ書くことができるが、拗音や促音など正しく表記できていない。学年相当の漢字の読み書きは定着しておらず、間違っ
て覚えてしまっている漢字もある。
- ・算数の九九を覚えていないため、かけ算・わり算の計算は時間がかかる。また文章問題は問われていることや内容を読み取ることができず、ほとんど解くことができない。
- ・母子家庭で母親は日本語がほとんどできない。母親とは簡単なベトナム語で話している。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語科：漢字の広場「お話の続きを考えて書こう」

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・前学年の漢字を使って文章を考える活動を通して、2年生までの漢字を読み書きすることができる。
- ・絵を見て想像したことをもとに文章を書くことで、目的を意識した表現になるよう文を書くことができる。
- ・積極的に2年生までに学習した漢字を使って文を作ろうとしている。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・2年生で習った漢字を使って物語を書くというめあてを知り、既習の漢字をふり返る。
- ・登場人物とあらすじをつかみながら、文の作り方を考え、物語を書く。
- ・場面ごとに書いた物語を自分で読み直したり、お互いに読み合ったりして、言葉の使い方を確認し、語彙を広げる。

6 指導における工夫点・学習の成果

楽しい絵の中に、既習の学年の漢字が「言葉」として配置されているため、絵で表された場面と言葉を容易に結びつけることができ、語彙を豊かに広げる学習となった。既習の言葉の決まりを確認したり、語彙を広げたりできるようリード文が書かれており、無理なく児童のもつ言語の力を高めることができた。また、「宝物探し」という設定は児童の関心を惹き、出来事や気持ちを想像し、先のストーリーを考えるなど、楽しく取り組むことができた。

7 教材・教具

- ・宝物探しの掲示物（絵）
- ・ワークシート
- ・つなぎ言葉のカード

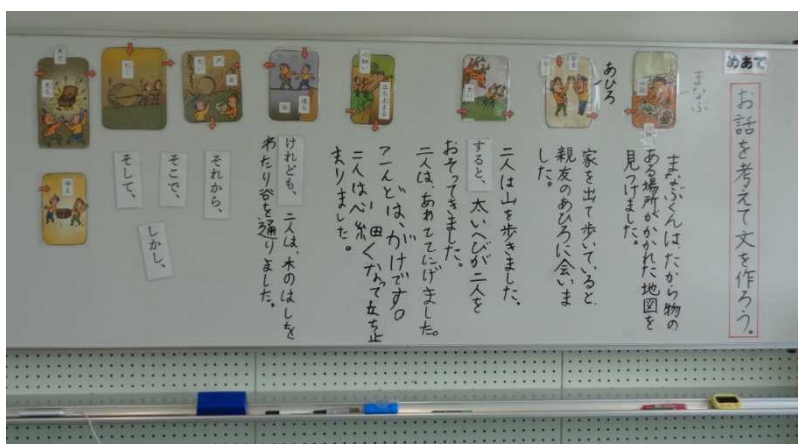
8 活動の様子



漢字が配置された宝探しの掲示物



つなぎ言葉を使って話の続きを考えて書く。



出来上がったお話の板書

1 単元名 漢字の広場（お話の続きを考えて書こう）

2 単元目標

- ・前学年までの既習の漢字を書き、文の中で使うことができる。
- ・書いた文の間違いを正したり、目的を意識した表現になっているか確かめることができる。
- ・進んで既習の漢字を使ってつながりのある文章を作ろうとしている。

3 単元の評価規準

- ・前学年までの既習の漢字を書き、文の中で使っている。（知・技）
- ・「書くこと」において目的を意識した表現になっているか確かめ文を整えている。（思）
- ・進んで前学年までに学習した漢字を確かめ、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。（態）

4 単元の指導計画（2時間）

「宝物探し」の絵で表された場面と漢字の言葉を結び付け、宝探しのストーリーを自分で考えながら言葉の使い方を確認したり、語彙を広げたりする。

5 本時の目標

絵を見て想像を広げ、2年生までに配当されている漢字や接続語を用いて、進んで物語を作ることができる。（知）（思）（態）

【日本語の目標】

- ・知っている漢字を思い出したり、新しい言葉を覚えたりして日本語の語彙を増やすことができる。
- ・物語の続きを考えることで言葉の使い方やつながり、文と文のつなぎ方を理解することができる。

6 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 今日の個別の課題に取り組み。	○音読をしたり、日付カードを読んだりして個別の課題に取り組みせ、日々の積み重ねの学習内容を定着させる。	
2 挿絵を見て宝物探しについて知り、本時の課題をつかむ。	○挿絵を見て宝物探しについて気づいたことを話し合い、本時の課題を知らせる。	挿絵の掲示物
習った漢字を使って、お話の続きを考えて書こう		

<p>(1) 登場人物とあらすじをつかむ。</p>	<p>○出発から書いてある漢字を読みながら、別の読み方や送り仮名、字形について確認し、物語の登場人物やあらすじを捉えさせる。</p>	
<p>(2) 文の作り方を確認する。</p>	<p>○物語の最初の例文を例として取り上げて説明し、絵の中の言葉を使って文を作り、物語を書いていくことを伝える。</p>	
<p>(3) 2人で相談しながら内容を考え、物語を書く。</p>	<p>○挿絵の中で誰がどんなことをしているのか、話し合い、どんな文ができるか相談しながらいくつか作らせる。場面ごとに文を作ることや、人物の気持ちを書き加えると、物語の楽しさが広がっていくことを伝える。</p> <p>○「そこで」「けれども」などの接続語を使って文と文をつなぐことを知らせる。</p> <p>○自分で物語を考えたり、言葉をつないだりすることが難しい児童には、声をかけ対話をしながら文と一緒に考えられるよう支援する。</p>	<p>ワークシート</p> <p>接続詞のカード</p>
<p>(4) 書いた文を読んで直す。</p>	<p>○自分が書いた文を挿絵の言葉が入っているか、言葉のつながり、誤字、脱字などに気をつけて読み直すようにする。</p>	
<p>(5) 物語を読み合う。</p>	<p>○お互いにできあがった文を言葉の使い方や物語の流れに沿っているかなどに気をつけて音読し合い、感想を伝え合わせる。</p>	
<p>3 学習をふり返し、次時の活動を知る。</p>	<p>○今日の学習について感想を伝え合い、4段階の評価カードから1枚を選ばせることで、学習のふり返しとする。</p>	<p>評価カード</p>
<p>★評価：既習の漢字を正しく使い、短文を作っている。(記述)</p>		

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年10月5日）

(1) D L A ステージ

ステージ 2

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月16日）

日本語能力	ステージ 2
母語力	ステージ 2

2 児童・生徒の実態

- ①学 年： 第1学年
- ②国籍及び母語： 中国・中国語
- ③在 留 期 間： 95ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

学校生活に必要な言葉（机・いす、本・ノート、外・中など）の違いがわかり、生活言語の語彙量が増えてきている。漢字・ひらがな・カタカナの読み方を覚え、物語などを読むことができる。自分の気持ちや考えを伝えたり、文章に書いたりすることは難しい。「いつ・何を・どこで」などの問いかけや長い文章で質問されると、答えられない場合が見られる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語科：たぬきの系車

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・わからない言葉を確認し、場面の様子を想像する。
- ・場面の様子や登場人物の行動の変化を見つけ、内容の大体を捉える。
- ・言葉のまとまりに気をつけ、擬音や擬態語などを楽しみながら音読する。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

「たぬきの系車」の範読を聞き、大まかなあらすじをつかみ、好きなどころを見つける。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・わからない言葉やイメージできないものを図書の本を手がかりに、言葉の意味やどんなものかを理解させた。
- ・叙述をもとに動作化させると、登場人物の行動や場面の様子を捉えることができた。
- ・登場人物の気持ちを想像させる際には、選択肢から選ぶと答えることができた。

7 教材・教具
図書の本 糸車

8 活動の様子



指を押さえながら、範読を聞く



図書の本で、イメージをつかむ



動作化でイメージをつかむ

(別紙) 指導案

(1) 目標

範読を聞いて、あらすじをおおまかにつかみ、好きなところを見つける。

(2) 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
1 題名や挿絵から内容を想像する。	○糸車の実物を触って、糸車の動きを知り、内容を想像しながら、物語への興味・関心を高める。	糸車の実物
2 「たぬきの糸車」の範読を聞き、お話の大体をつかむ。 ・登場人物 ・いつ、どこで	○範読していることを児童が指で押さえさせ、範読を聞いているか、範読の速さが適切かどうかを確認する。 ○題名や1段落目に着目させ、登場人物や時・場所に見つけさせる。	
3 わからない言葉の意味がわかる。	○段落ごとに範読を止め、わからない言葉がないかを丁寧に確認し、線を引かせる。 ○昔の物（土間やしょうじなど）は図書の本で見せたり、「目玉もくりくるりと・・・」などの言葉は動作化させたりして理解させる。	図書の 本
4 あらすじをおおまかにつかむ。	○登場人物の行動の変化に着目させ、おおまかにあらすじ（下記の4つの順番）をつかませる。 ① 山奥の夫婦の家に、いたずらをするたぬきが現れる。 ② 糸を紡いでいるおかみさんの様子をたぬきが見ている。 ③ 冬から春になり、おかみさんが家に戻ると、糸を紡いでいるたぬきを見つける。 ④ 見つかったたぬきが踊りながら帰った。	
5 好きなところを発表する。	○面白かったところや楽しかったところを探し、理由も考えさせる。	
6 本時のまとめとふり返りをする。	○本時のまとめを確認し、まとめをもとに心に残ったことを発表させ、ノートにまとめさせる。	

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年1月20日）

(1) D L A ステージ

ステージ3

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月19日）

日本語能力	ステージ3
母語力	ステージ3

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第5学年

②国籍及び母語： シリア・アラビア語

③在 留 期 間： 93ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

2年生の漢字でつまずくこともある。日本語の文章を読むことができているが、憶測や内容を理解せず、問題を解くことがある。

3 教科：単元名 （日本語指導：教材名）

国語科：日本語のスピーチ

漢字を覚えよう

日本の食べ物を覚えよう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

・日本語のスピーチ練習をさせる。

・漢字を学習させる。

・日本の食べ物を学習させる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

6 指導における工夫点・学習の成果

児童の参加するスピーチコンテストに向けて、スピーチする内容を書き、それを読んで確認した。便箋に書くことで、読むことに集中してスピーチ練習することができた。

漢字の学習は、2年生で学習する漢字を復習した。毎日の宿題で出る漢字のためよく書けていた。しかし、忘れた漢字が出たときはタブレットで調べさせ、正しい漢字を書けるようにした。

日本の食べ物のかるたを使って学習した。絵を見ながら自分の知っている食べ物や好きな食べ物に興味をもちながら取り組むことができた。

7 教材・教具

- ・チビむすドリル漢字2年生(1)
- ・便箋
- ・日本の食べ物かるた

8 活動の様子

スピーチ練習は、本人がスピーチコンテストに出るため進んで取り組むことができていた。本人も練習していたためすらすらと言葉が出ていた。

漢字の学習は、これまで宿題で出していた2年生で習う漢字を中心に行うと、ほとんど書けていた。わからない、忘れた漢字はタブレットを使い、正しい漢字を書くことができた。

かるたに描かれた絵を見ながら日本の食べ物を覚えることができた。食べたことがある食べ物や見たことがある食べ物を思い出しながら楽しく学ぶことができた。

学習活動	指導上の留意点
1 あいさつをする。 ・学習の流れを知る。	・めあてや学習内容を知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2 スピーチ練習をする。	・スピーチコンテストで話す内容を確認する。 ・文法が合っていなければ、正しい日本語を伝える。
3 漢字プリントをする。	・わからない漢字があれば、タブレットや教科書を使って調べるように伝える。 ・正しい書き順、正しい形で書けているか確認する。
4 日本の食べ物かるたをする。	・うどんとラーメンのように似たような食べ物に注意して取り組む。
5 ふりかえりをして、あいさつをする。	・ふりかえりをするすることで、学んだことを理解させ、次時への意欲を喚起させる。

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月8日）

(1) D L A ステージ

ステージ1

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月18日）

日本語能力	ステージ2
母語力	ステージ3

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第2学年

②国籍及び母語： アフガニスタン・ペルシャ（ダリ）語

③在 留 期 間： 3ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

- ・ひらがなはある程度読み書きができ、カタカナはいくつか読み書きができる程度である。
- ・1・2年の漢字の読み書きが少しできる。
- ・音読は、読み仮名があれば、ある程度単語や文節で区切って読める。
- ・身の回りのものの名前やよく使う動詞は覚えているが、理解できる基本語彙は少ない。

3 教科：単元名 （日本語指導：教材名）

国語科「見たこと、かんじたこと」（国語2年 光村図書）

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・身近な出来事や好きなことについて、理由や気持ちなどを話すことができる。
- ・関連することばをたくさん集めて、短い詩を作ることができる。

5 指導内容の概要

- ・身近な出来事や好きなことについて話をする。
- ・様子や気持ち、理由を表す言葉について、対話を通して引き出す。
- ・集めた言葉をつなげて、一緒に詩を作る。

6 指導における工夫点・学習の成果

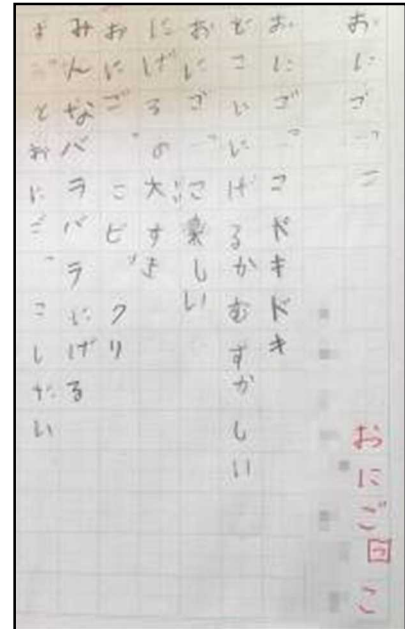
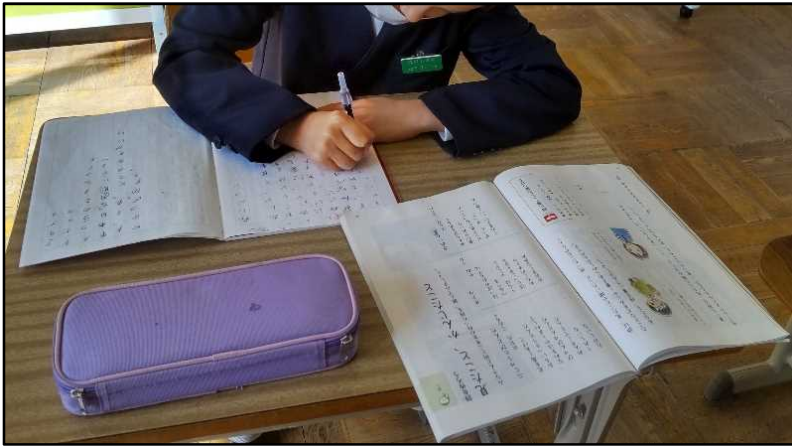
- ・「何が好き？」「どんな気持ち？」「それから」などと粘り強く声をかけることで、児童の発語を促し、関連する言葉をたくさん集めることができた。
- ・取り出し指導において、先行学習で詩を作ることで、在籍学級での活動（交流）への参加につながることができた。

7 教材・教具

教科書（国語2年 光村図書） ノート 絵カード

8 活動の様子

- ・大好きなおにごっこについて、楽しく話す姿が見られた。
- ・自分で詩が作れたことがとてもうれしく、「やったあ。」と大きな声を出して喜んだ。



1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年1月20日）

(1) D L A ステージ

ステージ2

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月19日）

日本語能力	ステージ2
母語力	ステージ3

2 児童・生徒の実態

- ①学 年： 第3学年
- ②国籍及び母語： シリア・アラビア語
- ③在 留 期 間： 6ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

日常会話はスムーズにできる。「読み」「書き」については、ひらがなだけで精一杯である。漢字は1年生レベルの物に取り組んでいるが、漢字の入った文章の読み書きは難しい。ひらがなのみの文章であっても、助詞を適切に使ったり文章を読み取ったりすることにも課題が見られる。算数では、計算ができるが、文章問題の意味を捉えることが難しい。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：物語を書こう「たから島のぼうけん」

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・主語と述語、助詞に気を付けて簡単な文章を書く。
- ・既習漢字を使って書いたり、日本語の語彙を増やしたりする。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・たから島の地図を見て物語の内容を想像する。
- ・「いつ」「どこで」「だれが」「どのように」「何をしたか」などの指導者の問いに答える形で書く。
- ・学習した漢字の一覧を用意し、使える漢字を確認しながら文章で使う。

6 指導における工夫点・学習の成果

○工夫点

- ・たから島の地図をコピーしたり、主人公を児童に設定したりすることで、物語の世界に入り込みやすくする。
- ・たから島について、指導者と会話しながら物語の内容を考える。

○学習の成果

- ・イメージしたことを話しながら書くことで物語を楽しんで作ることができた。
- ・様子を表す言葉を使って詳しく文章を書くことができた。

- 7 教材・教具（開発教材も含む）
 小学国語「こくご一下」（光村図書）
- 8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）



宝島のイメージを膨らませる



言葉を確認しながら書く

（別紙）学習の流れ

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 あいさつをする。 ・めあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてや学習内容を知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2 登場人物や出来事について整理をしながら大まかな流れを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物や出来事について自由に話をさせることでイメージを膨らませやすくする。 ・おおまかな流れを考えさせ、物語を書きやすくする。 ・それぞれの出来事について指導者が詳しく質問し、物語の内容を明確にできるようにする。
3 確認したことをもとに、物語を書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつ」「どこで」「だれが」「どのように」「何をしたか」を確認しながら詳しく物語を書けるようにする。 ・助詞を正しく書けるように、言葉＋「助詞の音」を意識させる。 ・既習漢字を使って書けるようにする。 ・物語を読み返し、物語をつくる楽しさを味わわせ、次への意欲を高める。
4 ふりかえりをして、あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりをするすることで、学んだことを理解させ、次時への意欲を喚起させる。

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月24日）

(1) D L A ステージ

ステージ4

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月23日）

日本語能力	ステージ4
母語力	ステージ4

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第4学年

②国籍及び母語： フィリピン・タガログ語

③在 留 期 間： 117ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

- ・日常会話は、流暢な日本語を話す。初めて読む文章もある程度は、単語・文節で区切って読むことができる。
- ・学年相当の漢字は読めるが、書くことに課題がある。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語科：伝統工芸しょうかいリーフレットをつくろう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・資料から自分の知りたい情報を読み取ることができる。
- ・伝統工芸のよさの理由や事例を挙げることができる。
- ・文章構成（初め・中・終わり）に気をつけて文章を書くことができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

6 指導における工夫点・学習の成果

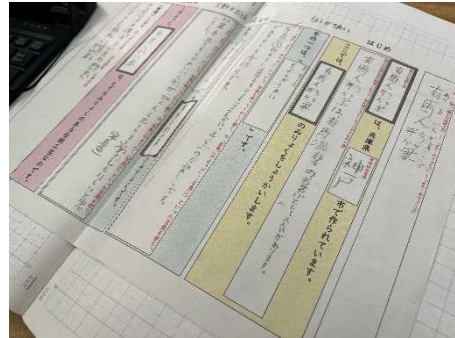
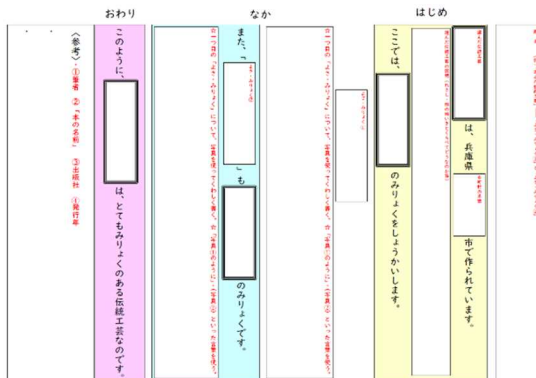
文章構成（書く内容の順番）をイメージしやすいようにワークシートを使用したことで、文章の組み立てを児童自身ですることができた。また、文章の表現に困らないように協働学習支援ツール「コラボノート」を活用することで他の児童のリーフレットを見ることができるようにした。それにより他の児童の文章表現を見て、自身の表現に生かすことができた。

7 教材・教具

- ・教科書（光村図書）
- ・「調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく」（伝統的工芸品産業振興協会）
- ・タブレットパソコン
- ・自作ワークシート
- ・協働学習支援ツール「コラボノート」

8 活動の様子

- ① 図書室から用意した資料「調べてみよう！日本の伝統工芸のみりよく全7巻」（伝統的工芸品産業振興協会）を一緒に見て、リーフレットにしたい伝統工芸を選んだ。
- ② 選んだ伝統工芸について「魅力」「その理由や事例」を資料から探し、ノートにメモをした。
- ③ 自作ワークシートを使って、文章構成を学びながら、メモした情報を文章として書いた。



- ④ 協働学習支援ツール「コラボノート」を使って、ワークシートに書いた内容をタブレットパソコンに書き写した。書き写す際、他の児童の文章も読みながら、よりよい文章表現に調整した。



(別紙) 指導の流れ

①あいさつをする。

「起立、今から○時間目の○○の学習を始めます。」

②日付・天候について聞く。

「今日は、○月○日○曜日です。」

「昨日は、○月○日○曜日です。」

「明日は、○月○日○曜日です。」

「天気は、○○です。」

③学習内容を確認し、板書する。

【本時の学習内容】

(1) 調べる

(2) 書く

(3) タブレット

④図書室の資料からリーフレットにしたい伝統工芸を選ぶ。

⑤選んだ伝統工芸の資料を読み、必要な情報（魅力、理由、事例）を集める。

⑥集めた情報を使って、ワークシートを完成させる。

⑦完成したワークシートと協働学習支援ツール「コラボノート」を使って、伝統工芸リーフレットを完成させる。また、他の児童の文章を読み、いいなと思う表現方法を自分のリーフレットに活用する。

⑧おわりのあいさつをする。

「これで、○時間目の○○の学習を終わります。」

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年1月20日）

(1) D L A ステージ

ステージ3

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月19日）

日本語能力	ステージ3
母語力	ステージ4

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第4学年

②国籍及び母語： シリア・アラビア語

③在 留 期 間： 6ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

- ・ひらがな・カタカナの学習が定着しているが、漢字は読めないものが多い。
- ・教科書の文章をすらすらと読むことは難しい。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：絵本をよもう
漢字を覚えよう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・物語に親しみを持たせる。
- ・物語を読む練習をさせる。
- ・漢字を学習させる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・児童が読みたい絵本を選ぶ。
- ・表紙や挿絵から絵本の登場人物を確認する。
- ・お話を指導者と児童が交代しながら読む。
- ・漢字カードを使って、漢字を確認しながら読む。
- ・漢字プリントで、漢字の読みを確認しながら書く練習を行う。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・児童が自分で読みながら話を理解できるように、文章やページを読むごとに、挿絵を使って登場人物の確認や物事の確認を行った。単語の中でも何度も出てくる物は、カタカナであっても、ページを進むごとにまとまりで読めるようになった。分かりにくい日本語は平易な日本語にして説明した。
- ・漢字の学習は、2、3年生で学習する漢字カードを確認し、その漢字がでてくる漢字プリントを読み書きすることで定着を図った。

7 教材・教具（開発教材も含む）

「はなさかじいさん」 文絵 いもとようこ 漢字カード

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

「はなさかじいさん」の本は、数ある本の中から本人が気に入って選んだものであった。小判が出てきたり、はたまたお化けが出てきたりなど楽しい展開の内容であったことであり、大変興味をもって読むことができていた。やさしいおじいさんのセリフを児童が、いじわるなおじいさんの生活を指導者が読むなど役割分担し、何度も出てくる言葉はカタカナや漢字を含めたものでもすらすらと読めるようになっていった。

漢字の学習は2、3年生の漢字カードを中心に使い、10枚ほどのカードの束を何周か繰り返し読む練習をすることで、ほぼ読めるようになった。また、カードで学習した漢字も使われているプリントに取り組んだ。



（別紙）学習の流れ

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 あいさつをする。 ・学習の流れを知る。	・めあてや学習内容を知らせることで、意欲的に学ばせるようにする。
2 「はなさかじいさん」を音読する。 ・わからない言葉や漢字を確認する。	・ゆっくりとでも、本人が自分で読みながら話を理解できるように、登場人物の確認や場面の説明を加えた。 ・役割や場面で交代しながら、繰り返し練習する。 ・わからない言葉は分かりやすい日本語に直したり、身近な例えを出したりして確認する。 ・わからない漢字があれば、タブレットや教科書を使って調べるように伝える。
3 漢字カードで漢字の確認をする。	・漢字は読み方と意味を説明。何度も繰り返し確認して定着を図る。
4 漢字プリントをする。	・形がくずれないように、ゆっくりとなぞり書きをさせる。
5 ふりかえりをして、あいさつをする。	・ふりかえりをするすることで、学んだことを理解させ、次時への意欲を喚起させる。

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月23日）

(1) D L A ステージ

ステージ4

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月24日）

日本語能力	ステージ5
母語力	ステージ5

2 児童・生徒の実態

- ① 学 年： 第2学年
- ② 国籍及び母語： ベトナム・ベトナム語
- ③ 在 留 期 間： 18ヶ月
- ④ 日本語習得状況及び学習状況
 - ・ 日常会話は、流暢な日本語を話す。初めて読む文章もある程度は、単語・文節で区切って読むことができる。
 - ・ 教科書だけでなく、図書室で多くの絵本を読む。
 - ・ 技能別日本語では「書く」に苦手意識がある。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語科：たんぽぽのちえ（光村図書）

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・ 順序を考えながら、内容の大体を理解している。
- ・ 時間やその推移を示す言葉を理解している。
- ・ 「たんぽぽ」を通して、日本の四季（春）を感じる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

6 指導における工夫点・学習の成果

時間的な順序を意識して読めるように、挿絵カードと本文カードを並べる活動を取り入れることで、文の初めに書いている「時間を表す言葉」に着目するようになった。また、挿絵のたんぽぽを実際に運動場へ探す活動を取り入れることで、教科書だけでなく、自身の生活と結びつけることができた。

7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・ 教科書（光村図書）
- ・ たんぽぽ（実物）
- ・ 挿絵カード
- ・ 本文カード

8 活動の様子

- ①挿絵カードと本文カードを正しく並べ替える活動をした。本文だけでは難しかったが、挿絵のたんぽぽの時系列と文の初めにある「時間を表す言葉」に着目して正しく並び替えることができた。また、カードの順番が決まった時、なぜその順番にしたのか根拠になる言葉や文章に線を引いた。



- ②挿絵のとおりになっているたんぽぽを探しに運動場へ行った。きれいな花を咲かせているたんぽぽや、綿毛になっているたんぽぽ、ぐったりとたおれているたんぽぽなど、様子の違うたんぽぽを探すことができた。



- ③本校にある自然に触れ、様々なオノマトペや日本語表現を身につけた（すべすべ、ざらざら、〇〇みたい等）。また、シロツメクサを見つけ、たくさん集めたので、花冠づくりをした。



(別紙) 指導の流れ

- ①あいさつをする。
「きりつ、いまから○じかんめの○○のがくしゅうをはじめます。」
- ②日付・天候について聞く。
「きょうは、○がつ○にち○ようびです。」
「きのうは、○がつ○にち○ようびです。」
「あしたは、○がつ○にち○ようびです。」
「てんきは、○○です。」
- ③学習内容を確認し、板書する。
【本時の学習内容】
(1) 読む
(2) ならべる
(3) みつける
- ④「たんぽぽのちえ」を音読する。
- ⑤「挿絵カード」と「本文カード」をならびかえる。
- ⑥カードの順番の根拠になった言葉や文に線を引く。
- ⑦実物のたんぽぽを見せ、運動場へたんぽぽを探しに行くことを伝える。
- ⑧運動場で挿絵のようなたんぽぽを探す。
- ⑨探している時に色や大きさ、オノマトペ(感触等)について日本語を確認する。
「何色ですか?」「大きさはどうですか?」「触ったらどんな感じですか?」
- ⑩春には、たくさんの花や生き物がいることを伝え、春の自然を感じる。
- ⑪自然に触れる中で出てくる表現方法を価値づける。
「よく知っているね。」「その言葉、生活の学習の観察カードに使えるね。」
「クラスのともしもだちにも教えてあげようね。」
- ⑫おわりのあいさつをする。
「これで、○じかんめの○○のがくしゅうをおわります。」

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月8日）

(1) D L A ステージ

ステージ1

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月18日）

日本語能力	ステージ2
母語力	ステージ5

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第5学年

②国籍及び母語： アフガニスタン・ペルシャ（ダリ）語

③在 留 期 間： 1年

④日本語習得状況及び学習状況

- ・ひらがなとカタカナはある程度読み書きができる。
- ・1・2年の漢字の読み書きがある程度できる。
- ・音読は、読み仮名があれば、ある程度単語や文節で区切って読める。
- ・名詞の語彙習得が進んでいる。動詞、形容詞については、使用頻度の高い語彙は習得できている。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：「反対ことばをおぼえよう」

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・実物や絵カードを使って、様子をあらわす言葉の意味を理解する。
- ・「反対ことば」の意味を理解し、「反対ことば」の組み合わせを考えることができる。

5 指導内容の概要

- ・カードを使って、知っている言葉と知らない言葉を確認する。
- ・知らない言葉について、実物や絵カードを活用したり声に出したりしながら、繰り返し覚えさせる。
- ・どれだけ言葉を覚えたのか、ゲームを通して確認する。

6 指導における工夫点・学習の成果

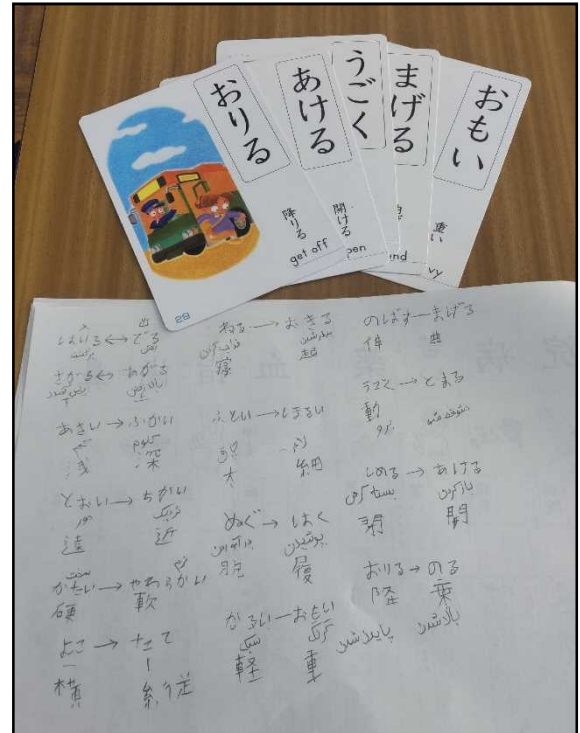
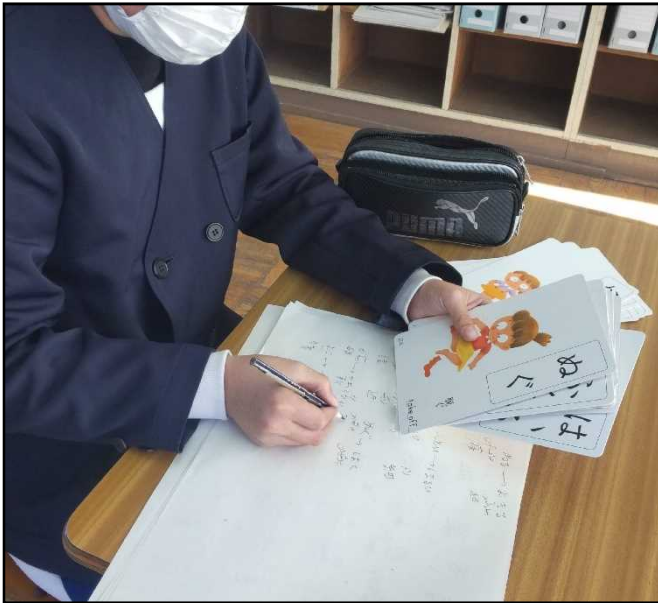
- ・実物や絵カードを活用することで、児童は言葉のイメージがしやすく、楽しく覚えることができた。
- ・ペルシャ語とつながりながら学習することで、児童は意欲的に新しい言葉を習得することができた。

7 教材・教具

えんぴつ、消しゴム、机、絵本、辞書、反対ことばカード（公文）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

- ・様子を表す言葉とその漢字、ペルシャ語をつなぎながら、自らまとめる姿が見られるようになった。自ら学びにおかえるようになってきている。
- ・わからないことも、どんどん質問しながら学習に取り組んでいる。



1 児童生徒の日本語習得状況（令和6年1月19日）

(1) D L A ステージ

ステージ1

(2) D L A <話す>のステージ（令和6年1月19日）

日本語能力	ステージ1
母語力	ステージ5

2 児童・生徒の実態

- ①学 年： 第6学年
- ②国籍及び母語： フィリピン・英語
- ③在 留 期 間： 6ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

日本語が全くわからない状態で渡日してきたが、6ヶ月が過ぎ、ひらがなやカタカナがほとんど読めるようになり、簡単な会話ができるようになってきた。本人の学習意欲が高いこともあり、日々語彙が増えている。しかし、学習言語を理解するところまでは至っておらず、教室での授業に一人で参加することは難しいので支援を受けながら授業を受けている。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語：動詞の活用

日本語指導：言葉の変わり方を知ろう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・動詞の活用を知る。
- ・動詞の活用を使って文を作る。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

動詞（イラスト入り）のカードを使い、～ます。～ました。～た。～ない。～ません。等の練習をする。

6 指導における工夫点・学習の成果

日々の学習や学校生活の中で語彙は増えてきている。それに加えて動詞の活用のさせ方を学ぶことで、使える言葉も増えると考え本時の学習を進めた。6年生なので、経験だけでなく知識として理解できることも増えており、文法の学習として学ぶことで日本語の習得に繋がった。

7 教材・教具

- ・絵カード（野菜・果物・動詞・形容詞など）
- ・図形カード

- ・日本語ワークブック（日本語の凡人社）
- ・在日フィリピン児童のための教材（東京外国語大学）
- ・日本語をまなぶ世界の子どものために かんじだいすき 国語・算数編
（AJALT 公益社団法人 国際日本語普及協会）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

（写真1） カードで新しい言葉を学習している様子。

（写真2） カードで漢字の学習をしている様子。

（写真3・4） カードで動詞の活用を学習している様子。



写真1

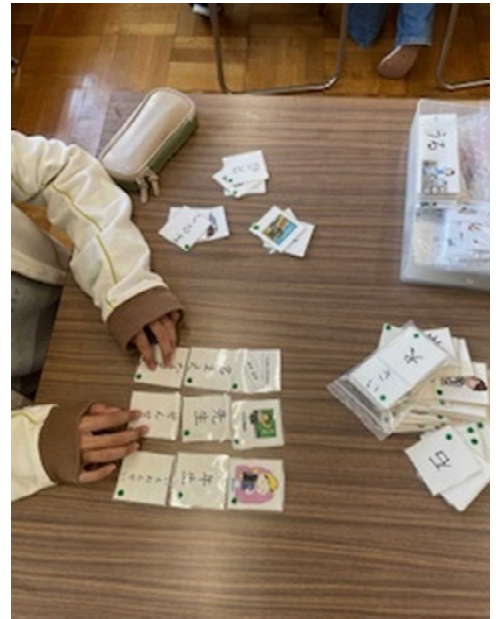


写真2

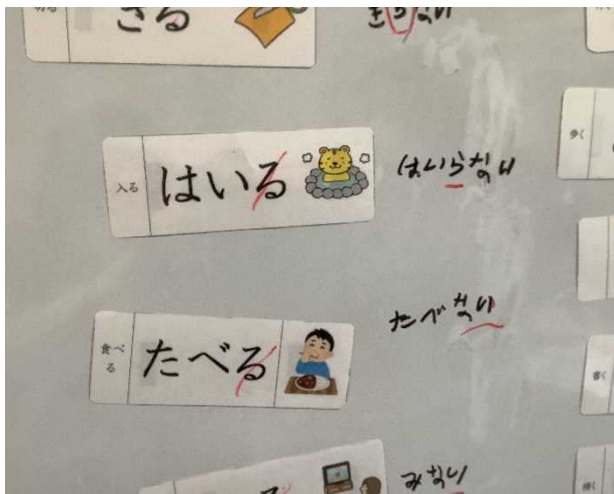


写真3

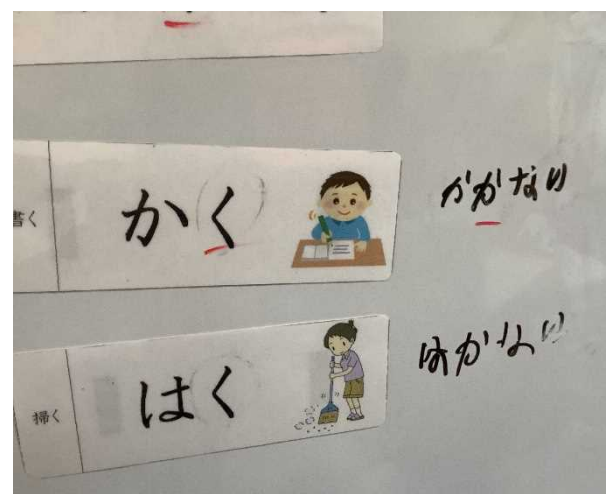


写真4

(別紙) 学習指導の流れ

目標：言葉の変わり方を知ろう。

展開

学習活動	指導上の留意点	評価基準【 】 評価方法（ ）
1 絵カードを使って、単語の学習をする。	・カードを使って、遊びを通して活動を毎回の授業に取り入れ、語彙の獲得に繋げる。	・新しく知る言葉に興味をもって学習しようとしている。 【態】(発言)
2 覚えた単語を使って文を作る。	・いくつかの文を提示し、参考にできるようにする。	・既習の単語を使って文を作ることができる。 【知】(発言)
3 本時の学習のめあてを確認する。		
4 動詞を動作化する。	・語彙の定着を促すため、動作化させる。	
5 動詞の様々な言い方を知る。	<p>・動詞のカードを使い、様々な活用があることを理解させる。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・～ます。 ・～ました。 ・～た。 ・～ない。 ・～ません。など </div>	・動詞の活用を理解しようとしている。【態】(発言)
6 学習した動詞を使って文を作る。	・助詞の使い方にも注意するように促す。	・動詞を活用させ、適切に使うことができる。 【知】(ワークシート)
7 本時の学習の振り返りをする。		

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月23日）

(1) D L Aステージ

ステージ1

(2) D L A<話す>のステージ（令和5年12月1日）

日本語能力	ステージ2
母語力	ステージ

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第5学年

②国籍及び母語： ベトナム・ベトナム語

③在 留 期 間： 35ヶ月

④日本語習得状況及び学習状況

- ・家庭内言語はベトナム語。両親と家庭でも日本語の学習をしている。日常生活では、話している内容が聞き取れるようになり、簡単な日常会話ができるようになってきたが、日常生活で使う語彙はなかなか広がらないわからない時は指導者や友だちに聞いたり、周りの様子を見たりして同じように活動している。
- ・ひらがなやカタカナは、ほぼ読み書きすることができるようになり、1、2年生レベルの漢字が混ざった文の音読もゆっくり読めるようになってきた。
- ・算数が得意で、学習プリントやテストでは日本語のわからない言葉があっても、学習してきた内容を思い出し、前後の理解できる言葉から答えることができる。他教科においては、学年相当の学習内容を理解する力はあるが、学習言語や学習内容を理解するには、個別の日本語支援を必要としており、今後の学習において困難さを抱えている。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語科：教えて、あなたのこと

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・自分が友だちに聞こうとする内容に合わせて質問の文を考え、インタビューすることができる。
- ・指導者の支援を受けながらインタビューの内容を考えたり、質問の意図を理解して自分の考えを伝えたりすることができる。
- ・日常の話し言葉とインタビューの時の丁寧な言葉の違いに気づくことができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・教科書の例や話型の見本を参考にしながら、友だちとインタビュー活動をするを理解する。
- ・友だちのことを詳しく知るために、聞いてみたい話題について質問を考え、話し言葉とインタビューする言葉の違いに気をつけて友だちにインタビューする。

- ・指導者の支援を得ながら、友だちの質問の意図に合わせて答えたり、分かりにくい時は尋ね返したりする。
- ・インタビューした内容を二文にまとめて紹介する。

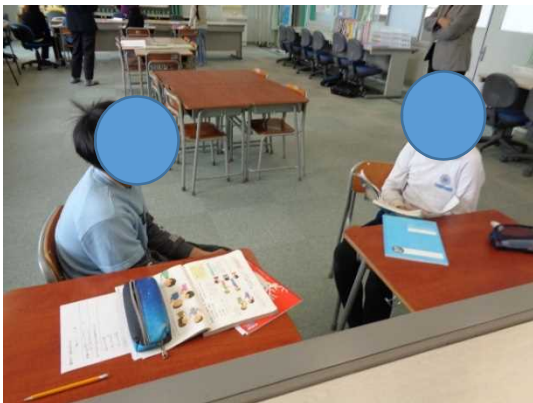
6 指導における工夫点・学習の成果

- ・一緒に学習している友だちについて、好きなものや会ってみたい人など、聞く内容を提示することで、「もっと知りたい」という課題意識をもってインタビューに取り組ませることができた。
- ・インタビューの形式を教科書で学んだり、話型を示したりすることで、話し言葉とインタビューの時の丁寧な言葉の違いに気づき、児童は意識して言葉を選ぼうとしていた。
- ・話し手の役割になったときには、指導者の支援を得ながらきき手の質問の内容を的確に捉えようとし、自分に関する事柄について必要なことを相手に伝えようとしていた。

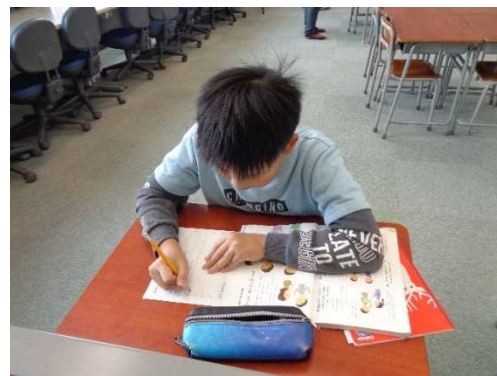
7 教材・教具

- ・話型の見本
- ・インタビューカード
- ・インタビューワークシート
- ・評価絵カード

8 活動の様子



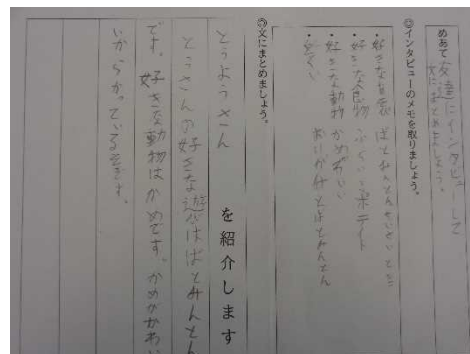
聞きたい話題を選び、お互いにインタビューし合う



心に残った事柄を文にまとめる



まとめた文を読んで友だちのことを紹介する



ワークシート

1 単元名 教えて、あなたのこと

2 単元目標

- ・自分が友だちに聞こうとする内容に合わせて質問の文を考えたり、話し手の質問の意図を理解し自分の考えをまとめたりすることができる。(思)
- ・インタビューする時の話型を知り、日常の話し言葉との違いに気づくことができる。(知)
- ・指導者の支援を受けながら質問や受け答えの内容を考え、進んでインタビュー活動をしようとしている。(態)

3 単元の評価規準

- ・日常の話し言葉とインタビューの時の丁寧な言葉の違いに気付いている。【知】
- ・自分が友だちに聞こうとする内容に合わせて質問の文や、質問の意図に合わせて考えることができる。【思】
- ・進んで目的や意図に応じて話の内容を捉え、指導者の支援を受けながらインタビューの内容を考え、インタビュー内容をまとめて紹介しようとするすることができる。【態】

4 単元の指導計画(全1時間)

第1時 楽しみながら話の内容を捉えてインタビューをし、それをまとめて紹介する。

5 本時の目標

楽しみながら、話の内容を捉えてインタビューをし、文にまとめて紹介することができる。

【日本語の目標】

- ・自分が友だちに聞こうとする内容に合わせて質問の文を考え、インタビューすることができる。
- ・指導者の支援を受けながらインタビューの内容を考えたり、質問の意図を理解して自分の考えを伝えたりすることができる。
- ・日常の話し言葉とインタビューの時の丁寧な言葉の違いに気づくことができる。

6 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 教科書を音読する。</p> <p>2 本時の課題を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の「教えて、あなたのこと」の単元の音読をし、学習の見通しをもつ。 一緒に学習している友だちのことを知るために楽しくインタビュー活動をすることや知った内容をみんなに伝えることを知らせ、相手意識や目的意識をもたせる。 	<p>ポケットーク</p>
<p>友だちにインタビューして、心に残ったことを文にまとめてみようかいしよう</p>		
<p>(1) お互いにインタビューをし合う。</p> <p>(2) 心に残ったことを紹介する文を考えてまとめる。</p> <p>(3) お互いに紹介し合う。</p> <p>3 本時の学習のふり返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 聞きたい内容を例示し、例示した内容を参考に相手に聞きたいことを考えさせる。 相手のことをよく知るインタビューのポイントを確認し、活動に生かすように話す。 インタビューする時の言葉遣いや話型に着目させ、普段使っている言葉との違いに気づかせる。 インタビューをする児童には、話を聞きながらメモを取ることを伝える。話を聞きながらメモを取ることが難しいようであれば、話のまとまりごとに区切り、メモを取るように促す。 インタビューされる児童は、相手の質問の内容が分からない時は尋ねるように促す。 「心に残ったこと」「みんなに伝えたいこと」を観点到、相手の特徴をよく表している内容を選び、「何を」「どのように」表現するか考えさせ紹介文にまとめさせる。 助詞の使い方や漢字、言葉のつながりがおかしくないか確認しながら書くよう気を付けさせる。 「きき手」「話し手」の立場から感想を話すことを伝える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>★評価：楽しみながら話の内容を捉え、インタビューしたり、インタビュー内容をまとめて紹介したりしようとしている。【態】【思】(発言・記述)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 今日の学習について4段階の分かったカードから、1枚を選ばせることで、学習のふり返りとする。 	<p>話型揭示</p> <p>ワークシート</p> <p>評価絵カード</p>

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月26日）

(1) DLAステージ

ステージ1

2 児童・生徒の実態

① 学 年： 第1学年

② 国籍及び母語： ペルー・ポルトガル語

③ 在 留 期 間： 73ヶ月

④ 日本語習得状況及び学習状況

- ・ひらがな、カタカナは読めるが、単語の意味や文の大意は、理解できない。
- ・音読活動を通して、語彙を増やし、文節や単語で区切って読めるように指導している。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語科：登場人物になりきって音読をしよう（光村「くじらぐも」）

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・文章を声に出して読むことができる。
- ・単語や文節に区切って音読することができる。
- ・物語の様子から登場人物になりきって、セリフを考えることができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

6 指導における工夫点・学習の成果

雲を別のものに見立てる活動をすることで、「くじらぐも」のお話に関心をもたせた。挿絵を見ながらセリフを考える際、単語カード（乗り物）を使いながら、語彙を増やした。「〇〇が見える。」というセリフ（文型）を使って、覚えた単語を活用させた。

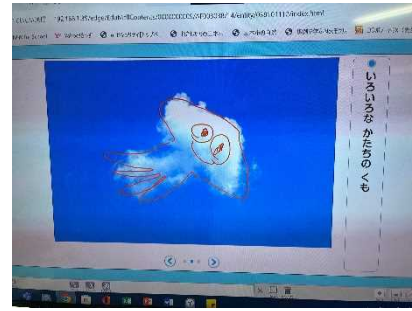
7 教材・教具（開発教材も含む）

- ・デジタル教科書
- ・のりものカード
- ・在籍学級の音読劇の練習動画



8 活動の様子

- ① デジタル教科書のワーク「いろいろなかたちのくも」を活用して、雲を別の何かに見立てる活動をした。「これは、タコ!」と自分の知っている言葉で見立てる楽しさを感じると同時に、物語への関心が高まった。



- ② 本文を視写しながら、ひらがなや文章を書く練習をした。また、オリジナルのセリフづくりでは、挿絵を見ながら、「自分だったら友だちとどんな話するか。」を考えた。「この絵は何?」から乗り物の名前を知らなかったため、「のりものカード」を使いながら乗り物の語彙を増やした。そして「〇〇が、みえる。」という文型を使いながら、「じどうしゃが、みえる。ふねも、みえる。」といったオリジナルのセリフを話せるようになった。



- ③ 音読劇を在籍学級で一緒にするためにまずセリフとジェスチャーの練習を取り出しで行った。本文すべてではなく、セリフを中心に単語や文節で区切って話せるように何度も練習をした。また、クラスでの練習の様子を動画で撮影してもらい、動画を見ながらセリフとジェスチャーを合わせていった。音読劇本番は、くじら役として友だちと一緒に体を使いながら、音読することができた。



(別紙) 指導の流れ

①あいさつをする。

「きりつ、いまから○じかんめの○○のがくしゅうをはじめます。」

②日付・天候について聞く。

「きょうは、○がつ○にち○ようびです。」

「きのうは、○がつ○にち○ようびです。」

「あしたは、○がつ○にち○ようびです。」

「てんきは、○○です。」

③学習内容を確認し、内容を板書する。

【本時の学習内容】

(1) よむ

(2) かく

(3) れんしゅう

④雲の写真から何に見えるか発表する。

「犬に見えます。」「タコに見えます。」

⑤子ども達がかくじらぐもの上に乗り、空を泳ぐ場面を音読する。

⑥挿絵を見ながら、何が見えるかさがす。

「うみが、みえる。」「くるまが、みえる。」「これは、なに？」

⑦挿絵を見てわからなかったもの(乗り物など)の名前を覚える。

「じどうしゃ」「ふね」「ボート」「トラック」

⑧見つけたものをつかって、「○○がみえる。」という作文する。

「なにがみえますか？」→「じどうしゃが、みえる。」「ふねが、みえる。」

⑨音読劇に向けての音読練習をする。(ジェスチャー・オリジナルのセリフ)

在籍学級での音読劇の練習動画を見ながら、みんなの音読の仕方やジェスチャーを真似したり、⑧の活動で作った文でオリジナルのセリフを言う練習をしたりする。

⑩おわりのあいさつをする。

「これで、○じかんめの○○のがくしゅうをおわります。」

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年6月7日）

(1) D L Aステージ

ステージ1

2 児童・生徒の実態

- ①学 年： 第1学年
- ②国籍及び母語： ペルー・スペイン語
- ③在 留 期 間： 3年
- ④日本語習得状況および学習状況
 - ・ひらがな・カタカナの読み書きができる。
 - ・習った漢字の読み書きができる。
 - ・音読も毎日の家庭学習の積み重ねで詰まらずに読むことができる。
 - ・日常の生活道具や野菜・果物・動物の名前などある程度覚えることができる。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：「もののなまえやとくちょうをおぼえよう」

4 本単元でつきたい力

絵カードやプリントに描かれた絵を見てものの名前や特徴を理解することができる。

5 指導内容の概要

<プリントを使って>

- ①プリントに描かれた絵を見て、名前を書く。
- ②わからなかった絵についてプリントの下欄に書かれたものの名前の中から合うものを選んで書く。
- ③順番に発音する。

<絵カードを使って>

- ①どうぶつの絵カードを見て、名前を言う。
- ②答えられなかったどうぶつの名前を知り、もう一度発音する。
- ③2、3枚のカードを並べ、指導者の言う特徴に合うどうぶつを答える。
(例えば、「この中で一番体の大きいどうぶつは？」や「この中で海に住んでいる生き物は？」など)

6 指導における工夫点や学習の成果

- ・プリントの下欄に書かれたものの名前を初めは隠し、絵のみから名前を書かせるようにし、理解の程度を把握した。
- ・絵カードをフラッシュカードのようにめくり、答えるようにすることで、リズムよく覚えることができた。

- ・ 答えられなかったどうぶつを再度提示し、何度も発音させることで理解の定着を図った。
- ・ 答えられた時は、大いに褒めるようにすることで、意欲をもたせることができた。

7 教材・教具

「ことばのテーブル 100 枚プリント」 くもん絵カード (どうぶつ)

8 活動の様子

真面目な性格で、あいさつや号令などいつも大きな声で言うことができる。目を合わせることは少ないが、問われたことにはきはきと答えることができた。特に、じゃんけんやすごろくなどゲームを交えた学習をする時や褒めてもらえた時には、笑顔を見せ、とても楽しそうであった。



1 児童生徒の日本語習得状況（令和6年1月15日）

(1) DLAステージ

ステージ3

2 児童・生徒の実態

- ①学 年： 第3学年
- ②国籍及び母語： ベトナム・ベトナム語
- ③在 留 期 間： 105ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

日常会話はできるが、学習言語を扱う力が十分でない。音読はできるが、文章の内容を理解したり、感想を書いたりすることは難しい。2学期から何度も繰り返して、文章に触れさせる時間を積み上げてきたためか、テストやプリントの問いに対して、正しく答えることはできた。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

国語科：ありの行列

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・説明文を積極的に読み進めようとする。
- ・具体的な問い（いつ、どこで、だれが、どのように、どうしたなど）に答え、答えの根拠となる言葉や文章を見つけることができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

- ・本文を区切って書き出したカードを順序よく並べる。
- ・問いに対する答えの根拠となるカードを選びとる。

6 指導における工夫点・学習の成果

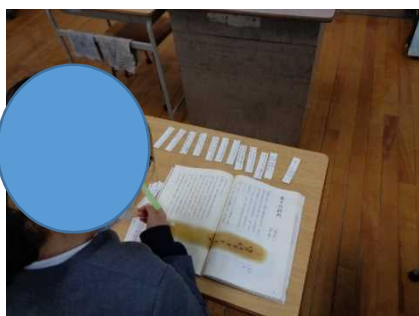
- ・教科書を音読することに加えて、本文を書き分けたカードを並べさせる作業を取り入れたり、目的に合うカードを選ぶ場面を取り入れたりすることで、文章に親しませたり、内容を確認めたりする機会を増やす。

7 教材・教具（開発教材も含む）

本文を区切り書き分けたカード

（カードの上端：段落ごとに色を変えてマーキング）

8 活動の様子



(別紙)

国語科指導案(略案)

1 単元 ありの行列

2 本時の目標

1段落の文章やそこで使われている言葉に繰り返し出会うことで、1段落の内容を理解する。

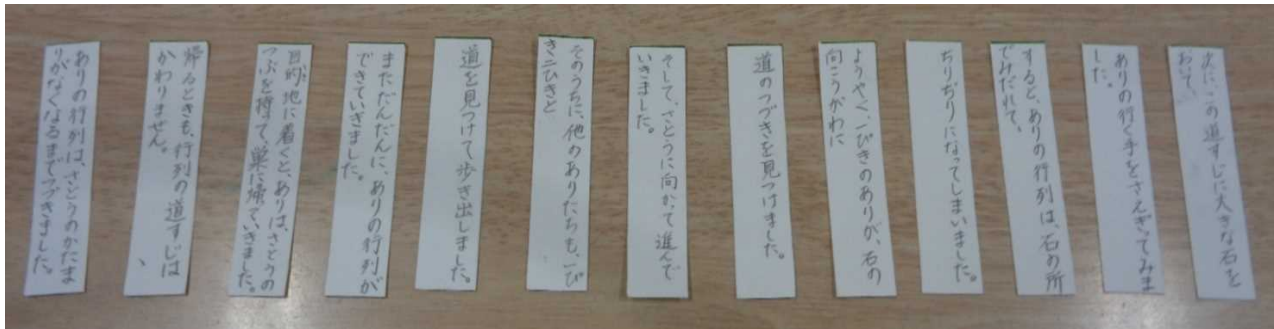
3 展開

学習活動	支援と留意点
1 1～4段落を書き分けたカードを順序良く並べる。	・カードはランダムに重ねて手渡し、本文に合うカードを選びながら並べさせる。
2 指導者の範読を聞きながら、並べたカードを確認する。	・並べている時に正しく並んでいるかどうかを確認しておく。 ・間違いがある場合は、範読の速さを調節するなど、間違いに気づきやすくさせる。
3 1段落の本文の内容を読み取る。 (1) 問いに答える。 「ありの行列を見かけた季節はいつですか?」「夏です。」 (2) 答えの根拠になるカードを選ぶ。 「これです。」(指で押さえる)	・文中にある言葉をそのままの形で取り入れながら問うことで、答えを見つけやすくする。 ・文中にはない言葉を含んだ問いも投げかけ、その言葉を理解しているかどうか確かめる。
※問いの内容を変えながら、(1)と(2)を繰り返す。 ※この場面の授業記録は別枠参照	
4 第1段落を音読する。	・音読した後、読み取った内容について再度確かめる。

授業記録 (3 1段落の本文の内容を読み取る)

指導者の問いかけ	児童の反応
・ありの行列を見かけた季節はいつですか? ・それはどのカードを見てわかりますか?	・「夏です。」 ・「これです。」 (右から3番目のカードを指す)
・その行列は、どこから始まってどこで終わっていますか?	・「……………」

<ul style="list-style-type: none"> ・その行列は、どこからどこまで続いていますか？ ・それは、どのカードを見てわかりますか？ もう一枚も読んでおきましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ありの巣から、えさのあるところまで続いています」 ・「これです。」 (右から5番目のカードを指す) ・「その行列は、ありの巣から、えさのあるところまで、ずっとつづいています。」
--	--



後日行った4段落の授業記録（抜粋）

指導者の問いかけ	児童の反応
<ul style="list-style-type: none"> ・ウイルソンは、道筋に何を置きましたか。 ・1枚目のカードを読みましょう。 ・どうでしたか。ウイルソンは道筋に何を置きましたか。 ・ありはちりぢりになった後、ちりぢりになったままでしたか。 ・1匹のありが道の続きを見つけました。どこに道の続きを見つけましたか。 ・「ちりぢりになってしまいました。」の次のカードを読みましょう。 ・どこに道の続きを見つけましたか。 ・見つけたのは、道の向こう側です。「向こう側」というのも場所を表す言葉です。「教室」や「学校」もちろん場所を表す言葉ですが、「向こう側」や「右側」「左側」とかも場所を表す言葉です。もう一度、さっきのカードを読みましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「・・・・・・・・」 ・「次に～大きな石を置いて～みました」（ゆっくりと最初から最後まで読んだ） ・「大きな石」 ・「・・・・・・・・」 ・「・・・・・・・・」 ・「ようやく、いっぴきのありが、石の向こうがわに道のつづきを見つけました」 ・「・・・・・・・・」 ・「ようやく、いっぴきのありが、石の向こうがわに道のつづきを見つけました。」

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月24日）

(1) D L A ステージ

ステージ3

2 児童・生徒の実態

- ①学 年： 第5学年
- ②国籍及び母語： ブラジル・ポルトガル語
- ③在 留 期 間： 76ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

日常生活では、日本語を中心に話している。ポルトガル語を使うことは少なく、家庭でも日本語の方が増えている。日常会話には、問題はないが、学習言語を伴う「読む」、「書く」、「聞く」の活動は、支援がないと理解が難しい。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

総合的な学習の時間：自然学校の思い出ムービーをつくろう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

- ・自然学校の活動の感想を文章に書くことができる。
- ・自分の書いた文章を単語や文節に気をつけながら読むことができる。
- ・自分の書いた文章と合う写真を組み合わせて動画を作ることができる。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

6 指導における工夫点・学習の成果

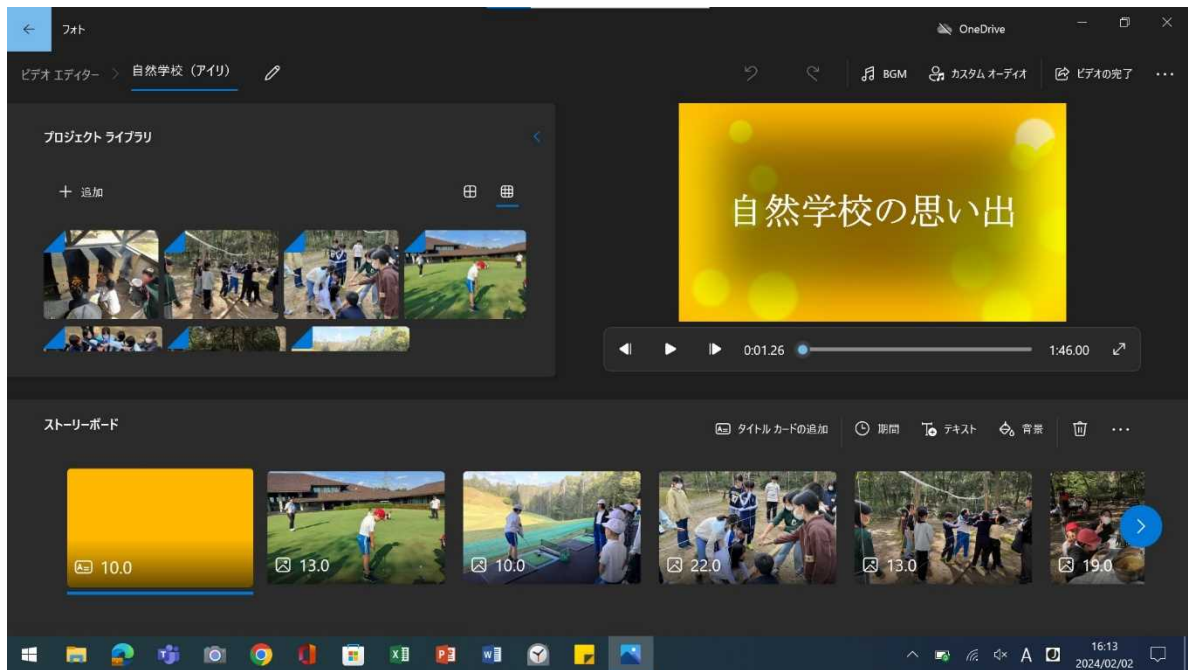
動画撮影ではなく、「ボイスレコーダー」と「ビデオエディター」を活用することで、「読む」ことに集中して取り組むことができた。「下の学年（4年生）の外国籍児童に自然学校を教える」というテーマを設定したことで、自分が自然学校へ行くまでに不安だったことや行って見て安心したことなどを具体的に考えて、作文することができた。

7 教材・教具

- ・タブレットパソコン
- ・Windows アプリ「ボイスレコーダー」「ビデオエディター」
- ・作文用紙
- ・自然学校の写真

8 活動の様子

- ①「自然学校の思い出」をテーマに作文を書く。
- ②タブレットパソコンのボイスレコーダー機能を使って作文を音読する。
「声の大きさ」「読む速さ」「聞こえやすさ」をポイントに自分で音声を聞いて、自分が納得するまで撮り直した。
- ③タブレットパソコンの「ビデオエディター」を使って。②で撮った音声に合わせて自然学校の写真を並べた。音声を聞きながら、次の写真までの秒数を細かく設定した。



(別紙)

指導の流れ

- ①あいさつをする。
「起立、今から○時間目の○○の学習を始めます。」
- ②日付・天候について聞く。
「今日は、○月○日○曜日です。」
「昨日は、○月○日○曜日です。」
「明日は、○月○日○曜日です。」
「天気は、○○です。」
- ③学習内容を確認し、内容を板書する。
【本時の学習内容】
(1) 読む
(2) 編集
- ④前時に作った作文をボイスレコーダーで録音する。
- ⑤ビデオエディターを使って、動画を編集する。
- ⑥動画を見直して、音声と画像が合うように調整する。
- ⑦おわりのあいさつをする。
「これで、○時間目の○○の学習を終わります。」

1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月15日）

(1) D L A ステージ

ステージ3

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第3学年

②国籍及び母語： ネパール・ネパール語

③在 留 期 間： 4年

④日本語習得状況および学習状況

- ・ひらがな・カタカナの読み書き（書き分け）ができる。
- ・3年生までの漢字の読み書きがおおむねできる。
- ・音読も初見でなければほぼ間違いなく読める。
- ・ものの名前などの名詞、動詞については、基本的な語彙は理解している。

3 教科：単元名 （日本語指導：教材名）

日本語指導：「おもしろ作文」を作ろう

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

主語・述語を理解し、短い文を作ることができる。

5 指導内容の概要

①主語・述語のプリントをする。

②カードに主語と述語をそれぞれ分けて書く。（3まいずつ）

③書いた文を発表する。

④主語、述語別にカードをシャッフルする。

⑤主語、述語のカードを1枚ずつ取り、作文を発表する。

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・主語、述語をたくさん書かせて、理解を深めていく。
- ・シャッフルしたカードで「おもしろ作文」を作り、楽しみながら理解ができるようにする。

7 教材・教具

「豊かな読解力がつく国語プリント2年」（喜楽研）

8 活動の様子

同学年の友だち（パキスタン籍女児1名）と一緒にすることで、はりあいをもちながら毎回取り組んでいる。「おもしろ作文」は、面白い文ができると大笑いし、楽しんで活動した。



1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月22日）

(1) DLAステージ

ステージ3

2 児童・生徒の実態

①学 年： 第4学年

②国籍及び母語： パキスタン パシュート語

③在 留 期 間： 5年

④日本語習得状況および学習状況

- ・ひらがな・カタカナの読み書き（書き分け）ができる。
- ・2年生までの漢字の読み書きがおおむねできる。
- ・音読は文節で区切って読むことが難しく、詰まることが多い。
- ・ものの名前などの名詞、動詞については、基本的な語彙は理解している。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：「すごろくを使って指示されたことを理解しよう」

4 本単元でつきたい力

すごろくを楽しみながら日本語で指示されたことを理解する。

5 指導内容の概要

- ・じゃんけんをしてすごろく上のコマを進める。
- ・止まったところの指示に従う。

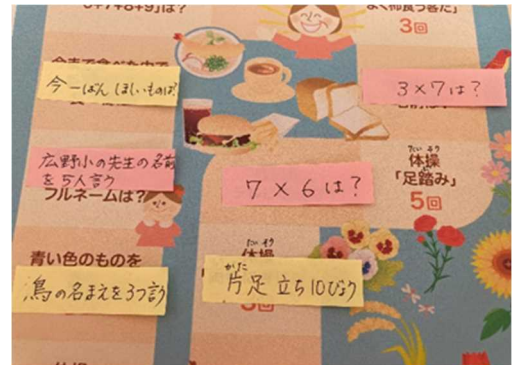
6 指導における工夫点や学習の成果

指示の内容に勉強中の九九を取り入れたり、物の名前や友だちの名前を答えたりし、多様な学習ができるようにした。

7 教材・教具

高齢者レク素材「じゃんけんすごろく」

8 活動の様子



1 児童生徒の日本語習得状況（令和5年5月30日）

(1) D L A ステージ

ステージ I

(2) D L A <話す> のステージ（令和5年12月21日）

日本語能力	ステージ I
母語力	

2 児童・生徒の実態

- ①学 年： 第8学年
- ②国籍及び母語： ベトナム・ベトナム語
- ③在 留 期 間： 8ヶ月
- ④日本語習得状況及び学習状況

もうすぐで小学校までの漢字が終わる。日本語や漢字をまとめたプリントは手元に持っておくようにし、何かあればそれを見て復習している姿が見られる。最近は家で日本語の勉強を夜にするようになってきている。サポーターがつかない中、周りの友だちの力も借りながら一斉授業に入る頻度も少しずつ増えてきた。

3 教科：単元名（日本語指導：教材名）

日本語指導：文を読み、どんな気持ちでいるか考えよう。

4 本単元（本教材）の学習から伝えたい学力及び日本語学習能力

文を読み、状況に対して登場人物がどんな気持ちでいるか考える。

5 指導内容の概要（※別紙参照）

6 指導における工夫点・学習の成果

- ・状況をわかり易く説明することで登場人物の気持ちがわかりやすくなった。
- ・絵をつけることでより状況がわかるようになった。
- ・わからない気持ちの言葉は翻訳機を使った。
- ・答えを選択肢を用いて見つけることで考えやすくなった。

7 教材・教具（開発教材も含む）

ことばのたつじん「きもちことば」（プリント）

8 活動の様子（板書や児童生徒の写真等）

絵が好きなので絵を描くことで内容を理解している様子。

(別紙) 日本語指導 (J S L 国語科) 学習指導略案

1 単元名 きもちのことばを知ろう

2 生徒の実態

7年生の9月に渡日。11月に編入するまでに50音のひらがなを見て読めるように勉強していた。約1年がたち、日本の習慣や日本の中学校の生活に慣れてきた。経験とともに語彙も増えてきた。

3 目標

文を読み、状況を理解し、その時の気持ちを考え、日本語で言えることができる。

4 指導計画 (全3時間)

第1時 人の気持ちを表す言葉の説明を聞き、日本語を反復する。

第2時 教材に書いてある気持ちを表す言葉の意味を絵などを使って覚える。

第3時 文章を読み、そこに書かれている状況に適した気持ちの言葉を見つける。・・・本時

5 本時の目標

状況に適した気持ちの言葉をわかるようになる。

(1) 目標

人の気持ちを表す日本語をたくさん覚え、使えるようになる。

(2) 日本語の目標

文を読んで習得した気持ちを表す言葉を言えるようになる。

6 準備物 ことばのたつじん「きもちことば」プリント

7 展開

学習活動	指導上の留意点	備考
<p>1 本時の目標を確認する。</p> <p>2 前時の復習をする。 ・表情やジェスチャー、絵を見て、その気持ちの言葉を見つける。</p>	<p>・前時に学んだ気持ちの言葉を読み返し、どんな意味かが即座にわからなければ絵を見せたり表情で表したり、ジェスチャーをして見せて思い出させる。</p>	教材
<p>状況に適した気持ちの言葉を見つける</p>		
<p>3 文を読み、文の内容にあった気持ちの言葉を選ぶ。</p>	<p>・まず、文の内容を理解させるために、日本語の意味がわからなければ翻訳機を使ってまずは理解させる。</p> <p>・「どんな気持ちですか。」と同じ言い方で質問をパターン化することで答え易くさせる。</p> <p>・間違った答えは、状況がわかっていないのか、気持ちの言葉がまだ理解できていないのか確認する。</p>	
<p>4 本時のふり返しを行う。</p>	<p>・間違った所をもう一度確認し、言葉を1つでも多く習得できるようにする。</p>	

4 JSL参照枠（全体）とDLA（4技能）の評価例

文部科学省「外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA」より

ステージ 学齢期の子ども の在籍学級 参加との関係	DLA<話す>					DLA<<読む>					DLA<書く>					DLA<聴く>			支援の段階	日本語の学習段階	
	話の内容とまとめ	文・段落の質*	文法的正確度	語彙*	発音・流暢度*	話す態度	読解力	読書行動	音読行動*	語彙・漢字*	読書習慣・興味・態度	内容	構成*	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール*	書く態度	聴解力*			聴解行動
6	教科内容に関連したトピックについて理解し、積極的に授業に参加できる	<input type="checkbox"/> まとまった話が1人でできる <input type="checkbox"/> 年齢相応の教科学習語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が大変高い					<input type="checkbox"/> 文や意味のまとまりに区切りながら、流暢に読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がよく理解できる					<input type="checkbox"/> まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 効果的な段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、正確度の高い文章が書ける					<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがよく理解できる			自律学習段階 支援付き	教科につながる学習段階
5	教科内容に関連したトピックについて理解し、授業にある程度の支援を得て参加できる	<input type="checkbox"/> ある程度まとまった話ができる <input type="checkbox"/> 教科学習語彙がある程度使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度が高い					<input type="checkbox"/> ややゆっくりではあるが、だいたい文や意味のまとまりに区切って読める <input type="checkbox"/> 年齢相応の語彙や漢字がある程度理解できる					<input type="checkbox"/> ある程度まとまりのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 段落が作れる <input type="checkbox"/> 表記上、誤用が少ない文章が書ける					<input type="checkbox"/> 教師の話の内容の大筋と流れがある程度理解できる				
4	日常的なトピックについて理解し、学級活動にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 文を生成し、ある程度連文ができる <input type="checkbox"/> 日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 発音が自然で、流暢度がある					<input type="checkbox"/> 安定して文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 1つ下の年齢枠の語彙や漢字が理解できる					<input type="checkbox"/> 文と文をつなげて、流れのある作文が書ける <input type="checkbox"/> 表記上の誤用はあるが、意味は通じる文が書ける					<input type="checkbox"/> 身近な内容の話をして聞いて大体理解できる			個別学習支援段階	初期の後期段階 (一年以内)
3	支援を得て、日常的なトピックについて理解し、学級活動にも部分的にある程度参加できる	<input type="checkbox"/> 単文レベルの応答ができる <input type="checkbox"/> 身近な日常語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢度が低い					<input type="checkbox"/> ゆっくりではあるがだいたい文節や単語に区切って読める <input type="checkbox"/> 支援を得て、2つ(または3つ)下の年齢枠の語彙や漢字がある程度理解できる					<input type="checkbox"/> テーマと関連がある複数の文が書ける <input type="checkbox"/> 文字・表記上の誤用が多い					<input type="checkbox"/> ごく短い身近な内容の話をして聞いて支援を得る程度理解できる				
2	支援を得て、学校生活に必要な日本語の習得が進む	<input type="checkbox"/> 二語文 <input type="checkbox"/> 基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さなし					<input type="checkbox"/> 文字習得が進む <input type="checkbox"/> 身の回りの語彙を聞く、または、読んで、理解できる					<input type="checkbox"/> 文を書こうとする <input type="checkbox"/> 表記ルールをある程度理解して文を書こうとする					<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">評価対象外</div>			初期支援段階	前期段階 初期の 前期段階 (6か月以内)
1	学校生活に必要な日本語の習得が始まる。	<input type="checkbox"/> 一語文 <input type="checkbox"/> わずかな基礎語彙が使える <input type="checkbox"/> 流暢さ無し					<input type="checkbox"/> 文字習得が始まる <input type="checkbox"/> 身の回りのよく知っている語彙を聞く、または、読んで、理解できる					<input type="checkbox"/> いくつかの関連する単語を並べることができる <input type="checkbox"/> 表記ルールについての理解が始まる									